

BUSINESS SEGMENT REVIEW



事業の種類別セグメント

THK は、2007 年に自動車部品メーカーである株式会社リズムの全株式を取得し連結子会社化したことにより、自動車や二輪車などの輸送用機器向けのビジネスが大幅に拡大しました。そのため THK では、2007 年度より、それまでの工作機械や半導体製造装置をはじめとする各種産業用機器向けのビジネスを「産業用機器関連事業」、FAI 事業部とリズムのビジネスを合わせたものを「輸送用機器関連事業」とし、事業の種類別セグメント情報を開示しています。

各事業の特徴

産業用機器関連事業の特徴は、これまでの製販一体体制への取り組みを通じ、受注の変動に機動的に対応し効率的な生産体制が構築できている事業、すなわち売上高の増加を着実に利益増につなげることのできる事業といえます。そのため、日本、米州、欧州、アジアの世界 4 極において、売上高の増加に向けた取り組みをより一層強化するとともに、さらなる収益性の向上に向けた取り組みを強化していきます。

輸送用機器関連事業の特徴は、開発・生産・販売など全ての面において、リズムとのシナジーを追求し、規模の拡大と収益性の向上を目指す事業といえます。高い成長が期待される一方、設備投資次第で動向が振幅する側面を持つ産業用機器関連事業と異なり、より安定的な収益が見込めるといった事業特性を持っています。輸送用機器関連事業におけるビジョンとして、「ゼロ保証*と独自技術を柱に、デファクトスタンダード製品をもつ Tier1 メーカーとなる」を掲げ、今後は、当社の主力製品である LM ガイドやアクチュエータの自動車における採用拡大に向けた取り組みを強化していきます。

*ゼロ保証：重要不具合ゼロ、納入不具合ゼロ

2008 年度の概況

産業用機器関連事業

2008 年度の産業用機器関連事業の売上高は前期に比べて 239 億円減少し 1,443 億円となり、営業利益は 163 億円減少し 199 億円となりました。日本では、2008 年度の前半は、企業の設備投資及び生産活動が減少する中でも、既存顧客との取引拡大ならびに新規顧客の開拓に努めた結果、フラットパネル関連向けなどで好調に推移させることができました。しかしながら、期の後半には需要全体が急激に減少しました。海外においては、米州では期の前半から一般機械向け及びエレクトロニクス向けを中心として全般的に調整が続きました。欧州では、期の前半は旺盛な機械需要を背景として、工作機械向けや一般機械向けなどが好調に推移しました。アジア他の地域では、期の前半は中国、台湾などの工作機械向け、韓国のフラットパネル関連向けを中心に好調に推移しました。しかしながら期末にかけて、海外各地域での需要は急激に減少しました。

輸送用機器関連事業

2008 年度の輸送用機器関連事業の売上高は前期に比べて 54 億円減少し 349 億円となりました。自動車生産台数は、期の前半においては日本および欧州は好調に推移した一方、米州では低調に推移し、期の後半においては各地域で低調に推移しました。そのような環境の中でも、既存の FAI 事業部とリズムが一体となった取り組みの結果、順調に採用車種の拡大を図ることができました。また、引き続きコスト削減に向けた取り組みを継続しましたが、需要が急激に減少したことに加え、のれん代の償却などにより、営業損益は 45 億円の損失となりました。